

複合動詞関連 テキスト論文&設問リスト [2013年度後期]

● 総論

- ① 石井正彦 (1983): 「現代語複合動詞の語構造分析—《動作》・《変化》の観点から」, 『国語学研究』23, 東北大学文学部, pp.五五～四四 (pp.32-43).

[論文①についての設問 1] 2013/10/04(金)

本論文 p.33 の表に示される動詞分類を初回の授業で触れた影山の研究と照らし合わせると、②は「非能格自動詞」に対応し、⑤は「非対格自動詞」に対応し、③④⑥は「他動詞」に対応すると思われます。その前提のもとで、「1-1 [他動的実現形態] → [[結果内容]] (pp.34-37) における議論と「他動性調和の原則」との内容の整合性について、なるべく個々の複合動詞に言及しながら論じてください。

[論文①についての設問 2]

[設問 1] と同じ前提のもとで、「1-2 [自動的实现形態] → [[結果内容]] (pp.37-40) における議論と「他動性調和の原則」との内容の整合性について、なるべく個々の複合動詞に言及しながら論じてください。

- ② 何 志明 (2002) 「日本語の語彙的複合動詞における『手段』の複合動詞の組み合わせ」, 『日本語教育』115, 日本語教育学会, pp.11-20.

[論文②についての設問 3] 2013/10/18(金)

本論文 pp.17-18 で筆者は、(27)も(28)も同じ「状態変化を表わす使役動詞+位置変化を表わす使役動詞」であるにもかかわらず、(27)は適切なのに(28)は不適切な組み合わせになる理由を、両者の V1 の表わす動作の過程における時間的な幅の有無に注目して説明しています。この説明について、なるべく批判的な検討を試みてください。また、一義的経路の制約を援用することを前提とした上で、それに代わるより有効な別の説明を考えてください。

[論文②についての設問 4]

本論文の pp.15-19, 「5. V1 と V2 における適切な組み合わせ」における一義的経路の制約を援用した議論は、「5-1 V1 と V2 の対象が一致している場合」と「5-2 V1 と V2 の対象が一致していない場合」という分類を柱としているため、V1 が対象(ヲ格名詞)を取る場合、すなわち他動詞の場合しか扱われておらず、V1 が活動動詞で非能格自動詞の場合は扱われておりません。(V1 が非能格自動詞の場合に関する筆者の主張としては、p.15 の上半分に「非能格自動詞の移動動詞は V1 になれない」という指摘があるのみです。) V1 が活動動詞で非能格自動詞の場合における、「活動動詞+位置変化を表わす使役動詞」(例:「泣き落とす」「競り落

とす)」と「活動動詞+状態変化を表わす使役動詞」(例:「住み荒らす」「泣き腫らす)」のそれぞれの組み合わせについて、一義的経路の制約を援用してどのような説明が可能か、考えてください。

● 「～こむ」

- ③ 甲斐朋子 (1999) 「複合動詞『～こむ』の程度進化の用法」, 『ポリグロシア』 2, 立命館大学言語教育センター, pp.1-8.

[論文③についての設問 5] 2014/11/01(金)

下記の例文(1)～(6)は日本語学習者が産出した複合動詞「～こむ」を用いた文で、いずれも前項動詞のみ(→)で示した表現)を用いた場合と比べて、容認度が低いと判定されるものです。また、それぞれの例文に用いられた複合動詞「～こむ」について、本論文 3.1.1.の7つの意味分類(①「感情、思考活動」～⑦「程度進化の用法・方向性添加の用法にまたがるもの」; pp.3-5)、および姫野(1978)の「程度進行」に関する3つの意味分類(①「固着化」、②「濃密化」、③「累積化」; pp.1-2)の、それぞれにおける帰属を番号で記してあります。

本論文 3.1.1.と姫野(1978)の意味分類を参考にしながら、それぞれの例文において複合動詞「～こむ」を用いた場合に何故容認度が低くなるのかについて、説明を試みてください。またその際に、この二つの研究における意味記述の仕方に不十分な点や問題点があると思われる場合には、それを指摘していただき、あなたなりの補足や修正を行ってください。

- (1) ? もう一時間もこの問題を考えこんだのに、答えられない。(→考えた)

「考えこむ」 本論文: ① 姫野(1978): ① (「考えこむ」は本論文 pp.1-2 には挙げられていませんが、姫野(1999)には①「固着化」の例として挙げられています。)

- (2) ? 昨日から冷蔵庫に入っているビールは十分冷えこんでいる。(→冷えている)

「冷えこむ」 本論文: ② 姫野(1978): ②

- (3) ? いらっしゃい。靴を磨きこんであげるよ。(→磨いて)

「磨きこむ」 本論文: ③-(iii) 姫野(1978): ③

- (4) ? 新しい教科書の件について話しこんでいる途中、議論になってけんかをしてしまった。(→話している)

「話しこむ」 本論文: ⑥ 姫野(1978): ①

- (5) ? どの家だって10年も住みこんだら、ものは山ほど増える。(→住んだら)

「住みこむ」 本論文: ⑦ 姫野(1978): 内部移動(本論文の「方向性添加の用法」に相当)

- (6) ? 今晚は友達のアパートに泊まりこみます。(→泊まります)

「泊まりこむ」 本論文: ⑦ 姫野(1978): 内部移動

例文(1)～(6)の出典：松田文子(2002)「日本語学習者による複合動詞「～こむ」の習得」『世界の日本語教育』12, pp.43-62.

[論文③についての設問 6]

今日(11月1日(金))の授業で配布した、姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房 付・複合動詞リスト pp.248-249 に掲げられている 285 語以外の複合動詞「～こむ」の語例を、各自一つ以上見つけて、例文とともに示してください。その際に、その複合動詞「～こむ」が程度深化の用法を持つ場合には、本論文の 3.1.1.①～⑦、3.1.2.、3.2.(pp.3-6) の分類のうちのいずれに相当するかについても記してください。

④ 松田文子 (2001) 「コア図式を用いた複合動詞後項『～こむ』の認知意味論的説明」, 『日本語教育』111, pp.16-25.

[論文④についての設問 7] 2014/11/15(金)

次の(1)～(4)は本論文の A タイプの用法で用いられた「V1+こむ」の例文 a, b のペアで、いずれも a よりも b の方が容認度は低いと考えられます。このそれぞれの容認度が異なる理由を、本論文における図 2 に基づく A タイプの説明(5-1, pp.19-21)の援用可能性に言及しながら、個々の例文に描かれた状況に即して説明してください。

- (1) 「流しこむ」 a. 排水溝に薬剤を流しこむ。 / b. ? 洗面所でコンタクトレンズを流しこんでしまった。
- (2) 「滑りこむ」 a. 列車が駅のホームに滑りこむ。 / b. ? 列車がトンネルの中に滑りこむ。
- (3) 「逃げこむ」 a. うさぎが木の茂みに逃げこんでしまった。 / b. ? 犯人はどうやら、飛行機で海外に逃げこんだらしい。
- (4) 「編みこむ」 a. セーターに編みこんだパンダがかわいい。 / b. ? セーターの穴があいているところを母は上手に編みこんでくれた。

例文の出典：松田文子(2004)『日本語複合動詞の習得研究 認知意味論による意味分析を通して』ひつじ書房

[論文④についての設問 8]

本論文における「～こむ」の D タイプ(「累積化」)の用法は、論文③(甲斐(1999)) 3.1.1. の意味分類においては③(例:「走りこむ」)、④(例:「煮こむ」)、⑤(例:「使いこむ」)に対応すると考えられます。この対応関係に注意しながら、本論文における図 6 に基づ

く D タイプの説明(6-2, p.24)の有効性について論じてください。また、本論文のこの箇所の説明に不十分な点や問題点があると思われる場合には、それも指摘してください。

- 「～かける」

- ⑤ 松田文子・白石知代 (2011) 「複合動詞『V-かける』の意味記述—L2 学習者の『V1+V2 ストラテジー』を活かすための試み—」, 『日本語教育』150 号, pp.86-100.

[論文⑤についての設問 9] 2014/12/06(金)

本論文では、複合動詞「V-かける」を本動詞「かける」の意味にしたがってタイプ 1 からタイプ 6 に分類した上で、表 2(p.98)において、本動詞「かける」の意味要素(「交接触性」)の反映の仕方に基づいて、それらを「物理的交接触」に対応するグループ(タイプ 1, 2, 3)と「心理的交接触」に対応するグループ(タイプ 4, 5)に大別しています。(この設問ではタイプ 6 は除外して考えます。) この 2 つのグループの複合動詞「V-かける」の間には、語形成において性質の違いが認められると思います。その違いについて、V1 と V2 のうち意味の中心をなすのはどちらか、V1 と V2 の間にどのような意味関係が見られるか、などの点に注目しながら論じてください。

[論文⑤についての設問 10]

「タイプ 6: 本動詞「かける」の用例からは説明が難しい項目」(pp.95-97)で述べられている〈みかける〉〈出かける〉〈押しかける・詰めかける〉〈畳みかける・喧嘩を)ふっかける〉〈みせかける〉〈しかける〉の意味分析の中から 1 つ以上を選んで、なるべく批判的な検討を試みてください。また、もし可能であれば、本動詞「かける」のコアとの関連についてあなたなりの説明を考えてください。

- 「とり～」

- ⑥ 松田文子・白石知代 (2006) 「コア図式を用いた複合動詞習得支援のための基礎研究—『とり～』を事例として—」, 『世界の日本語教育』16, pp.35-51.

- 「～はじめる」「～おわる」「～おえる」

- ⑦ 桑原文代 (1998) 「変化の開始を表す『～はじめる』」, 『日本語教育』99, 日本語教育学会, pp.1-11.

[論文⑦] についての設問 11] 2013/12/28(土)

本論文の第4節(pp.5-7)では、《状態招来の自動詞》を先行動詞とする「～はじめる」のうち、p.6の下から4行目～p.7の1行目に掲げられている3つの特徴を満たすものが扱われています。(下記の[参考]を参照のこと。) こうした「～はじめる」の例文と、それと同じ先行動詞を持つ「～だす」の例文をご自分で収集されて、「～はじめる」と「～だす」の間にどのような意味的相違があるかについて、個々の先行動詞の場合に即して説明してください。特に、筆者は本論文の第7節(p.10)において、「(「～はじめる」について)《状態招来の自動詞》で見た、経過の開始でその結果が視野に入っている、というような用例は「～だす」には一例もなかった。」と述べていますが、その真偽についてあなたなりの見解を述べてください。

[参考] 上記の「《状態招来の自動詞》を先行動詞とする「～はじめる」のうち、p.6の下から4行目～p.7の1行目に掲げられている3つの特徴を満たすもの」としては、本論文の第4節の例文(11)～(24)に用いられている「～はじめる」以外に、例えば「現れはじめる」「咲きはじめる」などがあると思われます。(出典：山崎恵(1995)「開始の局面を取り立てる局面動詞について－「～始める」「～出す」の用法比較－」、『阪田雪子先生古稀記念論文集 日本語と日本語教育』, pp.87-103.)

本設問の解答に当たっては、これらの「～はじめる」の例文を収集していただいても構いませんし、これら以外の先行動詞を持つ「～はじめる」の例文を収集していただいても、もちろん構いません。

- ⑧ 池谷知子 (2003) 「終了を表す複合動詞後項『～おわる』と『～おえる』について」、『日本語・日本文化研究』13, 大阪外国語大学日本語講座, pp.39-50.

● 複合名詞との比較

- ⑨ 林 翠芳 (2004) 「複合動詞との関わりから見た V+V 型複合名詞」、『ポリグロシヤ』8, 立命館大学言語教育センター, pp.79-91.

[論文⑨] についての設問 12] 2014/01/10(金)

本論文第6章に掲げられている全ての複合名詞のうち、後項要素が「切り」「合い」「出し」のもの、すなわち、

「～切り」: (5)「打ち切り」、(16)「貸し切り」、(22)「思い切り」、(26)「押し切り」

「～合い」: (9)「折り合い」、(11)「言い合い」、(25)「掛け合い」

「～出し」: (18)「打ち出し」、(27)「切り出し」、(28)「蹴出し」

について、本論文第 6 章の冒頭 (p.85) に述べられている石井(1984)による複合名詞の分類 (もともなった複合動詞の表す動きを〈ことがら〉として表すもの、そのうごきの結果としての〈もの〉を表すもの、〈ありさま〉を表すもの、そのうごきに関係する〈もの〉としての〈主体〉を表すもの、〈道具〉を表すもの、〈場所〉を表すもの、〈時〉を表すもの、など) と、本論文第 6 章における複合名詞の分類 (6.1、6.2.1、6.2.2、6.3) のそれぞれにおける帰属を考えることによって、この両者の分類の対応や関連について、なるべく整理した形で述べてください。もし可能であれば、これら 3 つの後項要素を持つ複合名詞の例を他にも取り上げて、検討に加えてください。